

令和5年度 第1回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和5年7月20日(木)
開会 午前11時00分 閉会 午前12時00分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 石黒 和彦
委 員 吉原 慎吾
委 員 中惣 恭子
委 員 村井 啓介

(事務局関係)
総合政策部長 藤井 勝司
総合政策部 総合政策課長 吉岡 謙
総合政策部 総合政策課主査 中田 純平
総合政策部 総合政策課事務員 中野 祐美
教育委員会事務局 事務局長 林 政憲
教育委員会事務局 事務局次長兼教育庶務課長 東谷 勝美
教育委員会事務局 学校教育課長 宮森 睦夫
教育委員会事務局 学校教育課教育ディレクター 中田 一宏
教育委員会事務局 生涯学習課長 藤本 圭志
教育委員会事務局 教育研究センター所長 表 久美子
小松市立高等学校長 源 義則

- 4 討議事項 ・「小松市立高等学校の活性化」について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○宮橋市長あいさつ

- ・本市では「子育てするなら小松」として、様々な子育て環境の整備をしている。よりよい環境の中で学習活動を行うべく、学校整備など安心安全な学習環境づくりを本格的に進めている。
- ・時代の変化の中で教育環境も変わりつつある今、子ども達が描く未来をいかに充実させ、社会の入口を見つけられるか、本市の大きな誇りでもある市立高校の在り方について、委員の皆様と情報を共有しながら、高等教育を切り口に検討していきたい。

○討議事項

- ・「小松市立高等学校の活性化」について

〈議長〉

- ・議題「小松市立高等学校の活性化」について説明をお願いしたい。

〈学校教育課 中田ディレクター（パワーポイント資料に基づき説明）〉

- ・市立高校を含む市内公立高校の入試の出願倍率はこれまで横ばいで推移してきたが、平成 31 年から減少傾向にある。
令和 2 年からの私立高校の授業料実質無償化開始が大きな要因と考えられる。
- ・全国的、南加賀地区においても中学校 3 年生の生徒数は年々減少傾向にある。一方で市内公立高校 5 校の募集定員合計は、これまでほぼ横ばいで推移しており、募集定員の確保が年々困難となっている。
- ・現在市内中学生の 75%程度が市内の高校に進学しており、その内 20%が大谷高校へ進学している。新校舎完成後の平成 25 年から大谷高校への進学割合が伸びており、生徒を集める施策を着実に進めている。

〈小松市立高等学校長 源校長（パワーポイント資料に基づき説明）〉

（現状）

- ・小松市立高等学校は昭和 35 年に女子高校として開校し、平成 8 年に男女共学となった。普通科と美術と音楽を専門とする普通科芸術コースから成り、部活動は運動部 10 部、文化部 10 部がある。ボランティア活動をしている生徒も多い。習熟度別の少人数学習体制で、昨年度は 4 年制大学へ 6 割、短大や専門学校に 3 割が進学、就職は 10 名程度である。
- ・一般入試倍率の動向は、平成 9 年に制服一新により倍率がピークとなり、その後減少し平成 24 年以降は 1.1 倍前後を推移、令和 5 年は 0.83 倍となっている。

（課題）

- ・普通科に入学した生徒には、明確な進路目標を持たず何となく進学を考えている生徒が多く、学習意欲や学力差が大きいことから将来を見据えて主体的に学ぶ意欲や態度を育む必要がある。
- ・令和 2 年 4 月から私立高校授業料実質無償化が開始し、全体的に私立高校志望が高まるなか、本校においても地元私立高校（大谷高校）と学力層が重なり、影響は大きい。
- ・白山市と能美市からの入学生が微減傾向にある。本校への交通アクセスが不便という生徒の声や、保護者からスクールバス運用についての要望がある。小松駅行きのバスが 1 時間に 1 本であり小松商業高校生で満員になると市立高校前で停車しない。
- ・普通科芸術コースは定員割れが続いているが、美術・音楽への関心が高い生徒が入学し、進路実績は良好である。
- ・今年、こどもの日にイチコーこどもまつりを実施したり、本市紹介の紙芝居を市内こども園等へ配布するなど PR を行った。OG の活躍や多方面での生徒の功績等を様々な情報ネットワークにより広報している。

（生徒へのアンケート結果）

- ・9 割以上の生徒が学校生活に満足しており、特に授業や教員についての満足度が高い。整った ICT 環境や芸術系専門教員の充実、非常勤講師の日展作家から教えを受けられ

る等、恵まれた学習環境にある。

- ・学校の雰囲気や学校行事、英語教育の充実を魅力を感じる生徒が多い。
- ・受検した理由として3割以上の生徒が通学しやすいからと答えた一方、改善してほしいことにスクールバスの運用などがあった。

<学校教育課 中田ディレクター（パワーポイント資料に基づき説明）>

- ・全国的に公立高校の活性化が検討されており、その代表的な方策として男女共学化、校名変更を伴う統合や学科の変更、中高一貫教育校の3つがある。
- ・「多様な生徒の個性を生かす学校」づくりを目指し、検討案として、スクールバス等の交通アクセスの整備や施設・設備のさらなる充実、広報活動の拡大・充実（市LINE等での学校情報の発信）、部活動の活性化（個人競技や他校にはない部活）、市立高校ならではの特色ある教育活動の実施（地域探究活動等）が挙げられる。

<議長>

- ・委員の皆さんからご意見をいただきたい。

<村井委員>

- ・部活動にかかる時間が短く勉強との両立が可能であることから、公立高校は部活動で非常に活躍している。小松市は中学校での部活動の地域移行を行っているが、活動環境を整え練習時間を短時間に特化するなどの取り組みができれば、将来的に市立高校と市内の中学校を交えた中高一貫校のクラブ的な動きに発展できるのでは。

<中惣委員>

- ・市立高校で学ぶメリットにインパクトが欲しい。
講師陣が揃っている。例えば若い世代に人気のある著名人を招く等、心を掴む何か欲しい。
- ・スクールバスの必要性を感じる。運用を市で検討できないか。

<吉原委員>

- ・他校との違いをどう差別化し、アピールしていくか。まず手を打ってみることが大切。
その際、権限と責任の在り方を決め、しっかりとした体制を立てることが重要。
- ・市立高校ならではの特色ある教育活動が不確実。はっきりさせた方がよいのでは。

<石黒教育長>

- ・小松高校生や明峰高校生は〇〇大学へ進学するという目標を持ち高校へ入学しているが、市立高校生は学力が合うからという理由が多く、非常に消極的な進学だと思う。
教育の在り方が随分違うため、今後一人ひとりのキャリアのサポートが大事。
- ・市立高校でしかできない部分を具体的に明らかにする。
- ・学校へ行きやすく、楽しく3年間を過ごしながら将来の方向性を見出すことができるとよい。

- ・外国人と話す英語の授業がある。中学生も認知しており非常にインパクトがある。英語を勉強したい生徒には非常に良いこと。昨年創設のダンス部員は 7、8 名から今年 25 名まで増えている。これも特色と言える。幅を持たせた教育内容、教育活動を作ることが大事。

<議長>

- ・こつこつと教育活動を行い学校の力を上げ、卒業生や保護者、地域の皆さんにも良い学校と思ってもらい取り組み支援をしていく一方で、中高あるいは高大一貫教育校とするなど今後抜本的に体制を変えるか、より議論を深め研究・検討する必要がある。
- ・今回は、市立高校の現状について共通認識を持てた。
- ・どのように進めていくか内部でも検討した上で、委員の皆様や市立高校とも共有し、次回に繋げていく。引き続きよろしくをお願いしたい。

以上

○閉 会